

■ 令和元年度白鷹町史談会総会・研究発表会のご案内

令和に改元されてから、1ヶ月が経とうとしています。

昭和63年生まれのため平成に改元された当時のことは記憶にありませんが、私の学年は昭和63、64年、平成元年生まれがおり、進級するたびに先生が「時代が変わった」と仰っていました。令和生まれの子どもも、同じように言われるのでしょうか。

さて、令和最初の会報は、白鷹町史談会総会をご案内いたします。(石井)

▼いつ 6月16日(日)

総会 午後1時30分～

研究発表会

史談会総会終了後、午後2時ごろから

▼どこで 荒砥地区コミュニティセンター

▼研究発表会の内容

平吹利敷さん

「伝・光明海上人入定窟発掘調査から」

丸川二男さん

「日露戦争とベンチャーズ」

◎ 終了後、懇親会を予定しています。

▼参加費

研究発表会：500円

(会員も資料代をいただきます)

懇親会：1,500円(会員は1,000円)

■申し込み・問い合わせ

教育委員会 生涯学習・文化振興係

☎85-6146

■総会参加時に会費(3,000円)を納入くださるようお願いいたします。

■ 火の灯しかた

石井紀子

昨年度末、遊佐町歴史民俗学習館を訪れた。ボランティアの解説員さんに案内され、民具を動かしながら詳しく紹介してもらった。中でも印象に残ったのは、柄がついた持ち運び可能な照明具(台帳では手燈と登録されている)からロウソクを取り出して火を灯す仕組みだった。

写真のようにロウソクを刺す芯がL状の細長い棒とつながっており、この棒を引き出してロウソクに着火して照明として使用する。



さて、白鷹町旧中山小学校にも同様の民具がある。柄を含めた高さ54cm、学習館で見たものより大きい。



白鷹町の民具は火袋を持ち上げて着火する。学習館資料のように棒を引き上げには不便があったのか、このような形が普及していたのだろうか。同じ形であっても細かな違いがあり、このような構造について本で理解するには難しい。

民具は一つ一つ丁寧に見ていかねばならないものだと気づかされた。

■ 「シダレアカマツ」のこと 1

丸川二男

この春は元号が変わるとか天皇の代替わりとかで、世の中はなんとも騒々しいが、当方はそれどころではない。ワラジを譲ってもらうために山口・佐野の鈴木さん宅を訪ねた時のことである。屋敷の入口に松があったのだが、これが見るからに貧弱で、弱っているように見えて「枯れるのでは・・・」と言ったところ、鈴木さん曰く、こういう種類の松なのだということである。



物を知らないということは万事こんなもので、柳や桜、梅や桃ならともかくも、松に「枝垂れ」があるとはこの年まで聞いたこともなければ、見たこともなかった。「今にも枯れそうな・・・」といったこの松も、父親から受け継ぎ、七十年の年月を経てようやくここまで成長したのだという。鈴木さんの話によると、このあたりではあまり見かけたことがないだけでなく、何人も実生や接木などで増やそうとしたが、ことごとく失敗。かろうじて育ったのがこの松だという。山形あたりの植木市を見て歩いても、まず見たことがないとか。

この松の「親」にあたる木が近くのお稲荷さまの別当・小松幹雄さんの庭にあるというので回ってみた。なんとも近くに行ってみなければ松とは思えない姿、形である。アカマツなのだが、見事に垂れ下がった枝を分けて幹の周りを測ると65センチほど。素性は不明というだけでなく、95歳になるというばあちゃんがここに嫁に来た時、この松はずであつたのだとか。

ところで松は元来、神を待つ木として庭先に植えられ、長寿やめでたいものの象徴であ

る。また「神が降臨する」と信仰され、神社や仏閣の庭園には欠かせないだけでなく、銘木もあちこちにある身近な樹木である。しかしこの「シダレアカマツ」はきわめて樹勢が弱く、年月がたっても太くならないのである。繁殖力も心細く、実生、接ぎ木を繰り返しても失敗の連続であつたという。



おそらく「松」といえば「白砂青松」、誰もが各地の名所旧跡にある枝ぶりの見事な松を思い浮かべるだろう。画家・笹原富山の描いた「若松」も天に向かってすっと立っているからの魅力なのだろうが、この松は地面に向かって成長し続けているのである。

その後、人づてに聞きながらあちこちと探し歩いた結果、新地の片倉さん、鮎貝の石栗さん、赤間さんが見つけたが、そのいわれや背景は今のところ不明である。鳥や風によって種が運ばれる草木とも違い、松などの樹木は自らは動けないのである。かつて流れ着いた椰子の実から日本人のルーツに思いをはせたという柳田國男の話もむべなるかなで、このシダレアカマツもいつのころか、人の手によってどこからか運ばれてきたものではなからうか。

松は身近なところにあるせいか、その周辺には気が付かないことが多い。門松など新年の縁起ものとして欠かせないだけでなく、盆栽としても人気がある。各地の古木は今も信仰の対象であるが、庭木や建築用材、かつては燃料や松脂、松根油、松皮餅など、その他に地名や、人名、松に関係する言葉のあれこれなども見直してみたいものである。